

## 研修センターだより

# STOP!!! 飲酒運転

全国各地で相次ぐ、飲酒運転による悲惨な交通事故のニュースをどれほど耳にしたことでしょうか？お酒を飲んで運転してはいけないと知りながら、何故、悪質で危険な飲酒運転は後を絶たないのでしょ

うか？  
飲酒事故の特徴を見てみると「酒気帯び」や「基準値未満」などの“軽度の飲酒”によるものが圧倒的で、処分を受けたドライバーの意識調査によると何と4割も的人が「酔っていない」と思っていたそうです。



わずかな飲酒で、深視力や動体視力・注意力が低下し、視野も狭くなり、反応時間も延びると言われています。

「まだ酔ってないから」「もう醒めたから大丈夫」…そんな考えが尊い命を奪ってしまうのです！この季節、お酒を飲む機会が増える方も多いと思いますが、“飲んだら乗るな・乗るなら飲むな！”を徹底してもらいたいものです。

### ☆セーフティプラザ みえ☆

三重県交通安全研修センターは、幼児から高齢者まで、実際に体験することにより、交通安全を楽しく学べる場所です。また、対象者に合わせた団体研修も行っていますので、お気軽にお問い合わせ下さい！

※開館時間：午前9:30～午後4:30

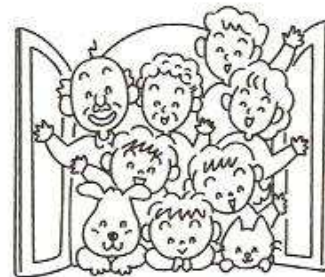
※休館日：土曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)

※所在地：〒514-8518 三重県津市垂水 2566  
(三重県運転免許センター4階)

※(TEL):059-224-7721

※(FAX):059-224-7641

※(URL):<http://www.safetyplaza-mie.com>





## ☆薄暮時・夜間は危険がいっぱい☆

夕暮れ時・・・「まだ、ライトは点けなくても大丈夫だろう」と思い、運転していてドキッとしたことはありませんか？

全国の事故発生時の時間帯を見てみると、16時～18時が最も多くなっています。仕事帰りの人・下校する学生などで交通量が増え、先を急ぐ心理や一日を終えた疲労感や安堵感から、注意力が低下し、また、モノの形や色が見えにくくなることから、歩行者や自転車の発見が遅れがちになります。また、夜間歩行中の死者数を月別に見てみると、10月～12月にかけて急増する傾向にあります。夜間は、車のライトなどの乱反射による目の錯覚が起こりやすく、街灯や店舗などで明るい道路では、昼間と同じ様に見えているつもりで運転しているドライバーも少なくない為、歩行者や自転車を見落とす可能性が高くなります。毎日走り慣れた道路でも、昼間以上に注意が必要です！



※この度、こうした薄暮時・夜間の危険を体験していただく為、平成18年12月20日(水)に交通安全指導者研修会の一環として、「交通安全ナイトスクール」を開催いたしました！

当日は、寒さの厳しい中、19名の皆さんが参加してくださいました。夜は見えにくいと分かっているにもかかわらず、それが実際にどんなものであるか体験することにより、改めて、夜間に潜む危険や見落としの怖さを、実感されているようでした。

まず、夜間は色の識別が難しくなることから、色の見え方の実験を行いました。7色のコーン(白・黄・水色・赤・緑・茶・黒)を並べ、車のヘッドライトを点け徐々に近づき、どの色がよく見えるか検証しました。遠くからでも目立つ色と、存在さえ分からなくなる色の違いがあり、皆さん目を凝らして、必死に暗闇を睨んでいました。同時に、反射材付きのコーンを設置したところ、遠くからでも分かりやすいと言うことで、その効果を実感されているようでした。

続いて、違反の目立つ無灯火自転車の怖さを検証しました。無灯火自転車と灯火自転車2台ずつ計4台で走行したところ、確認できたのは灯火自転車2台のみで、無灯火自転車は参加者の間近に来るまで、その存在を確認できない結果でした。また、車のライトによる蒸発現象の実験では、実際に横断者の姿が消える状況を確認してもらい、夜間特有の危険に驚かされていました。



人間は本来昼型の動物・・・夜になると眠気に襲われたり、注意力も低下するなど危険がつきまといます。車のライトの照射範囲や視機能の限界を知り、昼間感覚の運転は避けましょう。歩行者や自転車利用者も反射材の着用・早めのライト点灯により“気付いてもらう”ことが大切ですよ！